

全日本中国人博士協会メールマガジン

☆☆☆ 2012年3月1日 メルマガ第57号 ☆☆☆

謹賀龍年！

祝各位会員龍年吉祥，身心健康，万事如意！

強烈抗議名古屋市長河村隆之否認南京大屠殺事實的暴言

★ ご投稿・ご意見・ご要望：mailmag@casej.jpまで

本期内容

- ★編集者語 ----- 康 喜軍
- 名古屋市長 河村たかしへの抗議文 ----- 日中友好協会愛知県連合会
- 名古屋市長 河村たかしへの抗議文 ----- 日本中国友好協会東京都連合会
- 陳 文権博士特集
 - ・恭賀新年 ----- 陳 文権
 - ・个人简历
 - ・创造无数奇迹的临床教育科学实践“感动教育”
 - ・百年校庆学术讲座：早稻田大学陈文权教授
 - ・四科博士陈文权的奋斗人生
- 協会動態
 - ・2012“海外华侨华人高层次人才江苏行”活动 ----- 事務局
- 情報園地
 - ・2012年情報科学技術フォーラム ----- 李 磊
 - ・2012中国経済の展望 ----- クルーグマン
- その他
 - ・会員状況 ----- 事務局
 - ・投稿案内 ----- メルマガ編集委員会
 - ・メルマガ編集委員募集 ----- メルマガ編集委員会

★ 編集者語

康 喜軍

早春の候、雪解けの水が日に日に輝きを増していくのが心強く思われますが、天も地も躍動の春です。会員の皆様にご健康とご活躍を切に祈ります。

今日は2012年3月1日です。3月はグレゴリオ暦で年の第3の月に当たり、31日間があります。日本では、旧暦3月を弥生と呼び、現在でも新暦3月の別名としても用います。弥生の由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月」が詰まって「やよひ」となったという説が有力で、これに対する異論は特にありません。

ほかに、花月、花見月、桜月等の別名もあります。日本では年度替り（主に会計年度や学年）の時期として有名であります。月を通して卒業式や送別会が行われ、出会いと別れの時期でもあります。また、春休みに該当する当月末には、人事異動が行われたり、多くの学校・会社・官公庁などが引越しや移行作業、新生活の始まりなどで忙しくなります。春が来たという喜びは楽しみにしています。

昨年に関した日本大震災はもうすぐ1年となります。昨年の際には、大地の揺れや原発

事故はまるで昨日のようです。自然の怖さを体験した我々は人間の弱さを自覚し、皆様の手を繋ぐことは何より重要であることは言うまでもないでしょう。

しかし、この春暖の季節に日本の政治家がまた人を寒心させる冷血な暴言を吐きました。前衆議院議員、河村たかし名古屋市長が2月20日に中国の代表団に対して、南京大虐殺否定の暴言を發しました。その後、中国政府や良識がある日本の方々から厳重な抗議を受けたにもかかわらず、この暴言を撤回することがありませんでした。ここに河村たかし市長の暴言・暴挙に強く抗議するとともに、直ちにこれらの発言を撤回し、中国人民に心より謝罪することを強く求めます。

これに関連して今月号に日中友好協会愛知県連合会（石川賢作会長）及び日本中国友好協会東京都連合会（石子順会長）から河村たかし名古屋市長への抗議文を掲載致します。

さて、今月号には早稲田大学国際学術院教授陳文権(Chen Wen Quan)（日本名:カワン・スタント；外国名: Ken Kawan Soetanto）教授の特集として皆様にお届けします。

以前にも紹介されたように、陳文権教授はインドネシアの貧しい家庭のご出身でしたが、日本で「工学」、「医学」、「薬学」、「教育学」の4つの博士号を取得しました。その才能はアメリカで開花し、90年米トーマス・ジェファーソン医科大学医学部準教授を兼務、93年桐蔭横浜大学工学部教授に就任し、「学生のやる気を引き出す」教育法を確立されました。

東京農工大学_百度百科の紹介には、著名校友. カワン・スタント- 工学家、医学家、早稲田大学教授となります。ご専門は、臨床教育心理学、医用工学、超音波医学、薬科学、計測・装置工学です。経済産業省産業構造審議会 21世紀経済産業政策検討小委員会委員などを務められます。米国超音波医学会、米国音響学会、日本音響学会、日本超音波医学会などでファイロー賞や論文賞歴があります。

今回陳博士は米国のご自宅より、恭賀新年のご挨拶や「個人履歴」を会員様にお贈ると同時に、「创造无数奇迹的临床教育科学实践“感动教育”」、「百年校庆学术讲座：早稲田大学陈文权教授」、「四科博士陈文权的奋斗人生」などのご紹介文章を会員様に推薦し、ぜひ読んでいただけたらと思います。この場を借りて陳博士にお礼を申し上げます。

協会動態として「2012“海外華僑華人高層次人材江蘇行”活動募集」の通知を掲載しており、情報園地には2012年情報科学技術フォーラムがあり、博士協会情報系の皆様のご参考になります。また、米国ノーベル経済学賞受賞者のポール・クルーグマン博士の「中国経済の展望」の文章もあり、会員様にはご一読頂ければ、と思います。

以上の内容をもってメルマガ57号を会員の皆様にお届けします。時間があるときにごゆっくり読んで頂ければ、と思います。

メルマガに対してご意見・ご要望があれば、ぜひともご連絡いただき、今後の編集に生かしたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

~~~~~

2012年2月24日

名古屋市長 河村たかし殿

日中友好協会愛知県連合会  
会長 石川賢作

抗議文

市長はこれまで、国会議員時代から一貫して、南京大虐殺の事実について否定し、名古屋市長になってからも、同様の発言をくりかえしてきた。

今回もまた、中国共産党の代表団に対して、南京大虐殺否定の発言をし、すでに大きな国

際問題になっている。このような失態の基礎にある市長の歴史認識の主な問題点は以下のようである。

① 当時南京市の人口は30万人もいなかった、だから30万人も虐殺できるはずはない・・・これはまったく歴史の基礎をわきまえないものであって、南京特別市は近郊6県を含み、中心の南京城区は100万人、全体の人口は150万人を越えるものだった。この地域全体が南京攻略戦の戦場になり、南京事件はこの範囲で発生した。南京近郊の農村地帯でも人びとは状況が分からず、土地と作物と家畜を守るためにとどまり、そこでも多くの略奪と婦女暴行が行なわれた。

② 市長は、大虐殺がなかったということの根拠として自分の父親が、敗戦後、南京付近で中国人に温かくしてもらった。ラーメンの作り方も教えてもらった。だから、8年前に虐殺行為などあったはずはない、という。敗戦後に温かくしてもらったから、過去に残虐行為はなかった、というのは、中国東北部で少年時代を過ごした私個人の経験からしてもなりたないものである。日本の敗戦後、中国は15年を越える侵略戦争の怨念を越えて、100万を越える日本人を日本に帰国させ、国家としての賠償も放棄した。過去の恨みを抑えて日本人に対応したのである。

③ 市長は南京での虐殺は「通常の戦闘行為」であると主張しているが、大虐殺、略奪、婦女暴行の事実は、当時から英米、さらには同盟国ドイツの人びとからさえ世界に発信され、知らないのは日本国民だけであった。この事実については、旧日本軍の上級将校の団体「偕行社」の出版物でさえ、多数の捕虜を銃殺や刺殺により「処分」したことを記しており、また市長が口にした「戦闘詳報」でも捕虜の虐殺が明記されている。これらの証拠は、「目撃者がいなかったことが決定的」という市長の大虐殺否定論が根本的に破綻していることを示している。

④ 日中両国政府の企画である「日中歴史共同研究」でも、日本側は「南京大虐殺」について、犠牲者数については中国側との違いはあるとしながらも、「日本軍による捕虜、敗残兵、便衣隊、および一部の市民に対して、集団的、個別的な虐殺事件が発生し、強姦、略奪や放火も頻発した」と認めている。市長発言はこれすらも否定することになる。こうした中で、河村市長が中国側との「討論」を呼びかけてみても、その前提としての相互信頼関係が崩れ去っている。

南京市は21日、名古屋市との交流を停止すると発表した。これは南京市と名古屋市との関係にとどまらず、その悪影響は広範囲に及び、改善には長い時間に渉る新しい努力を必要とし、これまで、われわれが営々として築いてきた民間交流の成果にも深刻な影響をもたらし、当地方と中国の深い経済関係にも悪影響を及ぼし、ひいては日中両国関係にも暗い影を落とすことになろう。今年の日中国交回復40周年の記念すべき年であり、歴史を鑑に長い友好関係を打ち固めるべき年である。

公人としての市長の誤った歴史認識と不用意な発言が名古屋と南京の両都市関係を越えて大きな問題を引き起こしたこと、またそれが長年にわたる発言の継続であることを、われわれは深刻な問題と考え、市長の今回の一連の発言に強く抗議するとともに、これらの発言を直ちに撤回するよう強く求めるものである。（掲載許可済）

=====

名古屋市長河村たかし殿

日本中国友好協会東京都連合会  
会長 石子順  
東京都千代田区西神田2-4-1  
電話03-3261-0433

#### 抗議文

貴職は、今月20日に名古屋市と姉妹友好都市を結んでいる南京市（1978年提携）の劉志偉・中国共産党市委員会常務委員ら訪日代表団が名古屋市役所を訪れた際、「通常の戦闘行為はあったが、一般人への虐殺行為はなかったと聞いている」などと述べたと報道されてい

ます。また、2009年の9月議会でも「銃撃戦で市民が亡くなったことが誤解されて伝わっている」と発言し、南京市の南京大虐殺記念館についても、「今のままの展示だと日本人に対して大きな誤解をうむと危惧する」などと発言されています。

日本政府の立場は、被害者の具体的な人数については認定は困難としながらも、「日本政府としては、日本軍の南京入城（1937年）後、多くの非戦闘員の殺害や略奪行為等があったことは否定できないと考えています。日本は、過去の一時期、植民地支配と侵略により、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えたことを率直に認識し、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを常に心に刻みつつ、戦争を二度と繰り返さず、平和国家としての道を歩んでいく決意です」としています。（外務省ホームページ）

私たち日本中国友好協会は、日本の中国をはじめとしたアジア諸国への侵略戦争のしっかりとした反省の上ではじめて中国やアジアの人々との友好、親善がすすめられると考えています。一般庶民は平和に暮らすことを望んでいます。

今回の貴職の発言はこうした日本と中国の友好関係や人々の平和を願う気持ちを損なうものであり、貴職に対して抗議いたします。

今回の発言を撤回するとともに、平和を願う名古屋市民を代表する行政の長として南京市をはじめとした中国との友好交流活動をすすめていただくことを希望します。

今年は日中国交回復40周年の記念の年ですが、日本のみならず中国の人々からも今回の貴職の発言に対して多くの抗議の声があがっています。過去の日本の侵略戦争の傷跡を乗り越え、隣国どうしの友好関係をつくっていく、そうした立場で行政を司っていただくようお願いいたします。

2012年2月24日

（掲載許可済）

## ■協会動態

恭贺新年

陈 文权

陈文权从美国向您恭贺新年！

祝愿您阖家**新年快乐，身体健康，万事如意！**

今年是美国的东海岸 25 年从来都没有过的暖冬。岁末及元旦，风和日丽，碧空万里。

托日本华人教授会的福，2010 年有幸参加了中国少数民族实地调查研究活动，访问了西藏的拉萨。2011 年访问了云南的丽江和香格里拉等城市。无奈再次患上了高原病，苦不堪言，花了近 2 个月时间才大体痊愈。

仅仅隔了 1 周的时间，印尼泗水报社陈总亦患上了高原病，回泗水途中在广州市紧急住院，次日却成为不归人。这使我非常震惊而且悲哀。我两次患高原病而侥幸逃此劫难，真是谢天谢地。

这两年，我应邀在祖国印尼各地进行题为「使命与激情」(Mission and Passion) 的讲演和启蒙活动。继日本推出「感动教育」(讲谈社) 一书之后，印尼也出版了我的书籍。承蒙政府和民众赏识，成为了最畅销的书籍。各家报纸，杂志和电视台等竞相报道，盛况空前、我荣幸地成为印尼的民族英雄。：)

在日本（我的第三故乡），根据第三者进行的调查显示，截止到 2011 年 3 月(秋季学期)，我所教的文理四个科目中有 2 个科目，全体学生承认发生了良好的变化(成长)，其余的 2 个科目，承认发生了良好变化的学生分别为 78% 和 85%。这成为我步入花甲之年的珍贵礼物及人生中最美好的回忆。教师的强烈责任心和努力，加上学生的良好配合，我确信一定能实现这样的教学效果。

托大家的福，我在日美欧等高等教育领域，25 年如一日开展 IOC 教学和感动教育等，立足现场，彻底实施陈文权法，进行临床教育实践及研究，取得了良好的效果，感恩的同时也感慨

万分。

日本及其他国家让我当「大学校长」的邀请缤纷而至，令人难以置信，同时深感岁月不饶人，不觉中自己已步入老年。：)

今年，是我在日本执教的第 20 年，加上在美国约 5 年的教学研究活动，我已有 25 年的教龄。在早稻田大学执教是第 10 年。去年一如既往教育和研究并进，在日本和美国（我的第 4 故乡）各定居已有 38 年和 25 年了，真是感慨万千。

正如苏霞氏赠送的诗歌中所写，「塞翁失马，焉知祸福。世间万象，变幻云烟…。」。

真是「人生无常」！我衷心感谢诸位神明，祖先，父母，兄弟，姊妹，前辈，朋友，同事，学生等各位。谢谢大家！

今年也请大家多多关照，为创造一个更美好的新年共同努力吧！

With warmest regards

カワン・スタント（陈文权）拜  
Ken Soetanto, M.D., Ph.D., Pharm.D., Ed.D.  
Professor, Waseda University  
Director, Clinical Education and Science Institute, (CLEDSI)  
<http://kensoetanto.com/>

另。「读卖新闻」（2011.12.14）关于我的报道，敬请笑览。  
教育的文艺复兴 动机的秘密 「相信成长就会转变」  
<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/renai/20111214-0YT8T00146.htm>

个人简历（外文名：Ken Kawan Soetanto；日文名：カワン・スタント）

陈文权

父亲事业失败，家庭极度贫困，经历印尼内战，高中被迫辍学，重兴家族生意，远渡求学日本，屡遭歧视背叛，只身赴美追梦，接受邀请返日，20 年科研领先，更创感动教育。早稻田大学的华人教授陈文权，不服命运的安排，越过重重障碍。于 1974 年成功留日，1980 年东京农工大学电子系本科毕业，为该校五名著名毕业生之一\*。在日本先后取得工学，医学，药学和教育学跨越文理的四科博士学位。被日本媒体誉为“异能人物”。

1988 年起，在美国 Drexel 大学及 Thomas Jefferson 大学从事教育和科研，1993 年就任日本桐荫横滨大学工程系教授，确立了激发学生热情的启发性互动式教育法- IOC 教育法。2003 年就任日本早稻田大学教授，继续深入探索实践点燃心灵的火炬的感动教育。陈文权教育法被日经商务在线连续 16 回进行报道，引起教育界和商界的极大关注。陈文权教育法给予人们巨大的生存勇气 and 希望。

2000 年陈文权创办了日本最早的医用工程系，是全国发明者中最跃进的三大发明者之一。他荣获美国超声波医学会，美国音响学会，日本音响学会，日本超声波医学会的三个院士称号并屡获论文奖。他还被任命为日本经济产业省产业结构审议会 21 世纪经济产业政策讨论小组委员会委员等。

不但日本，陈文权接受祖国印度尼西亚，欧美，东南亚，中国政府和机关的热烈邀请，在各地巡回讲演。在马来西亚接受前总统穆罕默德·马哈蒂尔的邀请进行讲演；在印尼接受总统，教育大臣和国家智囊团等的邀请进行讲演。陈文权在印尼被当作民族英雄，当地著名电视台在收视率高的 Talk Show 作专题访谈，各大报纸及杂志等也纷纷报道，变成最受欢迎的公众

人物。

陈文权的专业领域，包括临床教育学，积极心理学，高等教育学，孔子教育·哲学，医用工学，超声波医学，超声波工学，超声波造影剂，药物科学，DDS 药品流通体系，电子测量·装置工学等。

个人著书有《感动教育》，《为什么所谓的“失败大学生”成了就职宠儿》。共同著书有《被讨厌的理工学的乐趣》，《超声波造影法的进步》等。

\*东京农工大学\_百度百科

[http://baike.baidu.com/view/249641.html?fromTaglist\\*](http://baike.baidu.com/view/249641.html?fromTaglist)

## 创造无数奇迹的临床教育科学实践“感动教育”

### -访华裔四科博士早稻田大学陈文权教授

华裔陈文权(Chen WenQuan;外国名: Ken Kawan Soetanto, 日文名:カワン・スタント)1974年离开“千岛之国”印尼踏上了“樱花之国”自费留学。经过29年坚持不懈的努力拼搏，他获得了东京工业大学的工学博士(1985)，东北大学的医学博士(1988)，东京理科大学的药学博士(2000)及早稻田大学的教育学博士(2003)，成为盖世无双的“文理合璧”的四科博士。

“不断的学习者，勇敢的挑战者”是陈文权的座右铭。他以此自勉并激励学生和周围的人。在美日欧从事了24年的科研及临床教育科学实践，陈文权在多个的科研领域和人才教育方面，硕果累累，被学生尊称为“现在进行时教授”。

日本《中文导报》2006年对陈文权科研及人才教育成就进行了4回专题报道。《四科博士陈文权—让失败者也能成功》(2006.2.2)中高度赞扬道“陈文权曾在日本、欧洲和美国多所著名大学做过研究，涉足领域从电子工学、超音波医学，创药工程学，一直到临床教育心理学、人才教育学等，医工同攻，文理横跨，成果卓著。”对陈文权的著书《为什么所谓的“失败大学生”成了就职宠儿》，《中文导报》编辑长杨文凯评论说“华裔教授陈文权对日本社会的启发，将长时期发挥别人难以替代的作用。”

日本通商产业省 NEDO 新能源技术研究领域 2006 年度成果报告表明，陈文权的研究发表件数 1987 年至 2006 年(2007.2)，近 20 年连续位居日本第一。他本人还被誉为全日本发明者中“最跃进的三大发明者之一”。

《日经商务在线》(2008.8.9-2009.7.15)对陈文权的人才教育以《用真诚创造积极人生》为题进行了16回连载，被读者评为“人气第一”。日经商务本部把16回连载推荐为2010年年末年初(2011年)的必读文章。称赞该文章是百年不遇的世界经济萧条之际，能“点燃人们心灵火炬”人才教育读物。

2010年讲谈社推出陈文权的著书《感动教育》。陈文权结合多年教学实践经验，一针见血指出日本现行高等教育体制的弊端，并通过大量临床教育研究案例，科学地阐明了人才教育中动机培养及心灵感动的重要性，指明拯救日本教育颓势的道路。给读者以巨大勇气和希望。

日本发行量最大的报纸《读卖新闻》(2011.12.14)《教育复兴：动力的秘密》栏目中对陈文权教育法以《相信成长就会改变》为题进行了专题报道。

陈文权被日本媒体称为“热血老师”。也有人把他誉为当代的“吉田松阴”。早稻田大学教授木下俊彦在对陈文权的书评中说：“我预感到这可能成为解决当今社会问题的座右铭一样的书，就像过去许多日本人从野口英世和宫泽贤治的书中获得过勇气那样。”

其实，陈文权的人生道路极为坎坷曲折，但他踏平坎坷成大道，克服了常人难以想像的艰难困苦。

## 一 “不断的学习者和勇敢的挑战者” 的陈文权

### 1. 印尼华人多孽的命运

陈文权 1951 年出生于印尼，祖籍中国福建。家境贫寒，幼丧父母。继母苛刻，食不裹腹。家庭得不到任何温暖，情愿清早去学校打扫教室。由于调皮捣蛋，常遭体罚。上初三成绩慢慢好起来。谁料想 1965 年印尼发生了“9·30 政变”，所有华校被迫关闭，正上高一的陈文权突然辍学。他帮哥哥经营电器店。同时，为弘扬中华文化，防止中文失传，他还自编教材，6 年为失学儿童义务补习华文。

### 2. 饱受欺凌歧视的留学生活

陈文权奢望上大学深造，但对印尼华人来说如上天摘月般困难。陈文权想方设法，费尽周折，历时三年终于找到了担保人，23 岁时来日留学，26 岁考入东京农工大学，比一般学生晚了整整 8 年；又是来自第三世界的弱国子民，处处被侮辱欺凌，甚至大学导师对他冷嘲热讽。但他一心苦读 14 年，获得了工学和医学双博士。怀着报恩之心，希望在大学任教，却以“印尼人不配教日本人”为由遭到拒绝。几十封求职信石沉大海，杳无音信。

### 3. 垂手可得的“美国梦”

一家五口没有生活来源。无奈，陈文权 1988 年自费赴美，在学术会议上发表了研究成果。很快他被推荐到著名 Drexel 大学当研究助理教授，不久升为副教授；并兼职在 Thomas Jefferson 大学医学部副教授。陈文权苦心钻研，其研究小组荣获美国 NIH(国立卫生研究所) 120 万美元的科研经费。“美国梦”似乎垂手可得。

### 4. “自讨苦吃”-在日执教，挑战极限

1993 年东京工业大学恩师奥岛教授诚邀陈文权到私立大学桐荫横滨大学任教授。是否放弃美国梦，重返屡遭侮辱欺凌的日本，陈文权陷入沉思。考虑到中国的迅速崛起及华人国际地位的改善，二十一世纪亚洲将成为全球战略中心，他不顾家人亲友的强烈反对，决定重返日本再创辉煌。

陈文权马上意识到现实的严峻。该校 Y 教授善意提醒他“这所大学的学生连讲义也听不懂，别奢望作研究！陈教授有没有搞错？已经到手的美国梦，何不紧紧抓住。何必来此自讨苦吃！我都被折磨成胃溃疡！”陈文权心想“你做不到不等于我做不到。”就这样，陈文权绞尽脑汁琢磨怎样培养三流大学的三流学生，迎接新的挑战。

### 5. 创造辉煌

陈文权在桐荫横滨大学创办了日本最早的医用工程系，并领导创建了先进的医用工学中心，荣获文部省颁发的高科技科研助成金 15 亿日元，建成了新研究教学楼。医用工程系深受社会欢迎，保住了全校教职工的饭碗。

陈文权带动学生，教授研究小组和恩师奥岛教授，共同攻克科研难题，获得多种荣誉，提高了大学知名度。1999 年桐荫横滨大学发明权跃升为全国第六名。他多次被评为桐荫横滨大学教学和科研双项优秀教师。根据 NEDO 2006 年度报告，陈文权教授指导的博士生陈民(Chan Man 来自香港，1999 年博士毕业)，1997-1998 年的研究发表件数全国排名第三；另一名博士生齐藤智宏(2000 年博士毕业)，同年度全国排名第六。而且 NEDO 研究发表件数排名榜前十位，陈文权科研小组师生名列前茅，占有举足轻重的地位。在这所三流大学，陈文权培养出渡会浩这样申请专利和在国际学术会议发表的本科生；连“朽木不可雕也”的学生，毕业后成为国际医疗福祉大学的教师(大内章子)……他多年在科研和教育领域辛勤耕耘，创造了一个又一个的奇迹。

## 6. 带病取得药学和教育学博士

数年日以继夜的教学科研及对外国人的极度排挤打击，陈文权身心疲惫，患上忧郁症，不得不休养。他带病以惊人的意志，获得了东京理科大学的药学博士（2000）；又获早稻田大学的教育学博士（2003），成为世间罕见的“三理一文”的四科博士。

## 7. 在百年名校早稻田，实践和发展“IOC教学法”

2003年9月至今，陈文权执教于早稻田大学国际教养学院。在这所百年名校，他继续实践和发展他创立的“IOC教学法”（启发性互动式教学法）。教学中实施9项课堂管理，5项教师准备和10项学生准备，三位一体相辅相成，为取得良好的教学效果奠定坚实基础。通过反复实践IOC，可从知识传授和技能培养的初级阶段，上升到感动心灵，幸福人生的高级阶段。陈文权将IOC教学法临床教育实践的理论及典型案例整理汇总，2010年推出“感动教育”一书。

## 二. 创造无数奇迹的临床教育科学实践“感动教育”

### 1. “感动教育”的时代背景

陈文权在日学习工作了38年，对日本高等教育体系利弊有着深刻的认识。陈文权在日任教的两所大学，一所是被称为“三流中的三流”的桐荫横滨大学，另一所是百年名校早稻田大学。他的学生来源广泛，他教授的课程跨越文理。

日本的大学升学率超过55%，大学早已从“精英教育”转变为“产业”。大学问题堆积如山。日本大学的别名叫“乐园”。早稻田大学的学生甚至每年推出一本《里程碑》，指导学生哪个老师的学分好混。很多大学生长期处于“放电状态”，大学对学生采取放任自流的态度。很多毕业生成为“自由职业者”或“啃老族”，给家庭和社会造成压力。

陈文权尖锐地指出，教育弊端有学生自身的原因，其实老师和家长也有不可推卸的责任。为拯救日本的教育，陈文权创立了“感动教育”，并结合脑科学和理工学，科学阐明“动机机制”，强调培养“内发性动机”的重要性，从1993年在日本的大学执教以来，陈文权连续不断创造奇迹，用心血谱写出诸多感人肺腑的乐章。

“感动教育”重视活跃在国际舞台所必要的修养；教师用热情和真诚感动和净化学生心灵，对于“优等生”，给予其“智慧的喜悦”和“心灵的充实”；对于失去奋斗目标和挑战意识的大学生，促使其重新振作，奋发图强，品味到“学习的快乐”和“心灵的感动”。陈文权强调老师不光传授书本知识，更应注重品德教育和人生观及价值观的培养，震撼心灵，使学生发生螺旋上升式转变（Positive Spiral Changes, PSC）。感动教育能激发出学生的无限潜力，从而提高其积极性，成为“主导型学习者”。感动教育的终极目的是自我实现和帮助他人实现，达到心里充实满足和人生美满幸福。这种以培养人格魅力为重点的新颖的教学方法被媒体称为“陈文权法”（Soetanto Method, STM），其教学效果被称为“陈文权效果”（Soetanto Effect, STE）。

### 2. “感动教育”的案例

#### 1) 《山穷水尽疑无路，柳暗花明又一春》——并木麻衣

学生并木麻衣（2008年本科毕业生，M&E课程），在自由民主的加拿大读完高中，考入早稻田大学国际教养学院，加入了国际标准舞课外活动小组，可是觉得个性被压抑扼杀，便中途退出。她对自己只选修不问考勤，容易得学分课程的“轻松取胜”的学习态度质疑，迷失了方向，并差点患上忧郁症，打算退学。幸亏选修了陈文权教授的M&E课程，她找到了大学生活的意义，成功地克服了忧虑和烦恼。她说：“我觉得陈教授对每个学生都非常关心。他平易近人，没有教授的架子，作为师长与学生接触。陈教授不仅传授知识技能，而且促使学生认真思考“应有的生活态度和治学态度”等重要课题。陈教授给我留下印象最深的一句话是“给予，给予，再给予”。即使不被对方理解也毫不怨恨，竭尽全力帮助对方。社会普遍认为多数大学生没有学习欲望，我认为学校需要更多象陈教授一样能满足学生期待的教育者。”并木麻衣把“给予，给予，再给予”作为毕业论文的部分内容及个人博客的标题。（《山穷水尽疑无路，柳暗花明又一春》日经商务在线 2008.10.18）

#### 2) 专利申请人，国际会议发表者兼著名作曲家，DJ音乐人的本科生——渡会浩

陈文权定下严格的课堂规章，还自制教材，大胆采用日英双语教学，开发学生潜能，激发学生的挑战意识。课堂上他穿插自己的人生故事，激励学生转变意识，挑战极限，获得成长和自信。

学生渡会浩曾经两次高考名落孙山，第三年终于被桐荫工学系录取，但发现自己选错方向，本想从医却主攻医用工程学。加上学习与爱好的时间投入的矛盾，结果自暴自弃，差点留级。偶然选修的共同课 15 堂课中有一堂课是陈文权教授的课，他立即被陈教授的热情和真诚所打动。他在感想文中写道：“我的体内有一股热流在奔涌，我的身体不住的颤抖。就在这一瞬间，我强烈地感觉到一切都还来得及，从现在开始也不晚，我想要改变自己。我不甘心落后。”这名学生曾经想当医生，但早已放弃了梦想。得知陈教授取得了工学和医学双博士，正带领师生从事医用工程研究时，他重新燃起了当医生的希望和热情。

大四时（1998）他进入陈文权研究室，陈教授把超声波造影剂研究的重要部分交给他做，还让他写专利申请，虽经多次失败仍不气馁，他终于出色地完成了研究课题。陈文权认为重要的是给了他一个自己思考的机会，这样就会激发他的潜能，让他拥有“只要肯干，就能成功”的自信。这名学生很快成长为申请专利并在国际会议上发表的本科生，不久还成为日本著名的作曲家和 DJ 音乐人。1999 年时，他已推出 10 张唱片，5 张 CD，其中 1 张 CD 推出后一周就卖出 200 万张，连续四周位居排名榜榜首。（《为什么所谓的“失败大学生”成了就职宠儿》三笠书屋 P109-145）

### 3) 实践“陈文权法”——堤阳子

有的学生在陈文权的影响和带动下，毕业后从事教育相关工作。堤阳子就是其中之一。

学生堤阳子 2005 年作为交换留学生在意大利威尼斯国际大学留学时，邂逅来自母校的陈文权教授并出于好奇选修了他的高等教育比较课程，立即被陈教授的诚恳和对教育的热忱所打动。她原来总是睡大觉逃避困难烦恼；但聆听了陈教授的“立即行动，机会就会降临”的教诲，深受启发，开始积极行动，设法解决问题。堤阳子是文学系的学生。回国后她为了接受陈教授的指导，申请跨系到国际教养系选修教育相关课程，为此晚毕业一年。她开始高度关注日本高中教育中存在的问题，看到身为外国人的陈教授为日本的高等教育改革呕心沥血，她改变了到外资企业就职的想法，决心进与高中教育相关的公司工作。如愿以偿，2007 年她进入著名的 Benesse 公司，负责对埼玉县高中教师进行评估和指导，开始实践“陈文权法”。（《痛苦时“行动”比“思考”更重要》日经商务在线 2008.11.29）

### 4) 长期住院，多次手术，八年级的本科生成功就职记——平井启佑

平井从小学 5 年级到初中毕业在美国亚特兰大度过。回国后读完高中，考入名门大学，并交换到北京大学留学一年，学生生活一帆风顺。可好景不常。他突然得了溃疡性大肠炎难治病症。病情恶化，反复住院手术，一时觉得这辈子算是完了。令人高兴的是，他的健康状态逐渐恢复，复学后的第八个学年，他选修了被公认为国际教养系“最严格”的陈文权教授的『教育领域动机学，MIE』课程。通过聆听陈教授的人生体验以及其他学生的讲演，平井意识到大家各有烦恼，都在努力克服这些烦恼。

轮到平井讲演时，他毫无掩饰地讲述了过去的经历，并宣布正在向新的目标迈进。他感到陈教授和同学的视线如此温柔，刹那间理解了坦率表现自己的重要性。求职面试时他坦诚而自信，如愿以偿，得到了老年人·残疾人雇佣促进团体（国家机构）的就职机会。接受专访时他说：“现在的辛苦奠定未来成功的基础。选修陈教授的课是我明智的选择。”（《现在的付出奠定未来成功的基础》Global Community 2011.10）

### 5) “追求从里到外渗透出的高贵人格”的学生 C. I,

陈文权认为，大学教育中知识技能和品德教育应该双管齐下。他所教的全部课程始终贯穿着品德教育这条主线。他鼓励学生阅读古今东西名著和伟人传记，从中汲取营养。

才貌出众的学生 C. I, 2011 年春季学期选修陈教授的 MIE 课程。听完陈教授关于提升人格魅力的论述,她心灵被触动,激动地在感想文里写道:“我宁愿舍弃一切华丽服饰,名包和珠宝,努力提高修养,追求从里到外渗透出的高贵人格。”最后一节课上提到被日本誉为“经营圣人”的稻盛和夫,将人分为非燃型(拒绝被影响型),可燃型(可被影响型),自燃型(主动影响他人型,分享自己的热情和能量)三类时,这名学生激动地写道“这一瞬间我感到我已从“可燃型”转变为“自燃型”。我要象陈教授一样给予他人以能量和积极影响。”

#### 6) “我的心复苏了,我感觉到心脏的剧烈跳动” —美国交换留学生 S.P

来自美国波士顿大学商学系 3 年级的一年期交换留学生 S.P, 由于早稻田大学的大多数课程对她缺乏吸引力和挑战性,她失去了学习动力,迷失了方向。转眼半年,她觉得没有学到什么新知识和技能,情绪低落。自责的结果,她 2011 年春季学期决定选修被认为国际教养学院“最严格”的陈文权教授的 MIE 课程。

她感想文写道:“陈教授的课对我很重要。聆听他的故事,我意识到自己如此幸运,从来不必为下一餐饭发愁。与许多人相比,我的困难根本算不了什么。我原来总在试图逃避问题,我开始意识到也许我能自行解决问题。无论遭受多少次挫折,只要行动起来,上帝会保护你,一切会好起来。过去我认为将来多赚钱,孝敬父母足已。听了陈教授的课,我认识到这还远远不够。我的心复苏了,我感觉到心脏的剧烈跳动,我找到了迷失的自我。”

这名学生已回到美国母校。最近她写给陈教授的邮件中,再次感谢陈教授的指导,并表示毕业后到日本就职,希望能接受陈教授的谆谆教诲。学生 S.P 将 MIE 课程所学内容付诸实践,立竿见影。看到她不断成长,勇于挑战未来,陈教授感到十分欣喜。

#### 7) 克服忧郁症,找到了新的梦想的苏霞

就读早稻田大学会计研究硕士课程的中国留学生苏霞(42岁),2011年2月份在WAA的讲演会上聆听了陈文权的演讲,觉得“感动教育像冬日温暖的阳光普照心里每个角落”。这种心灵的净化和灵魂深处的沟通,使她重新认识了自身价值,激发出难以置信的潜能,她身上连续不断地呈现出“陈文权效果”。

她扔掉了所有安眠药,向大学的老师和同学公开了自己忧郁症的历史,勇敢地宣布摆脱了折磨她长达25年的慢性忧郁症。事隔20余年,她开始创作诗歌,提笔作画。仿佛脱胎换骨,重获新生。

在校,她义务担当陈文权的助教;校外,共同创办了“中国研究会”,每月举办公开讲座,介绍中国传统文化。作为日本生产性本部的实习研究员,她为公司义务开办了“商务英语学习班”和“中文学习班”。她的奉献精神得到公司的关注和认同。

她说:“陈文权老师人生阅历丰富,克服了重重苦难,成为被人们尊敬的科学家和教育家。他波澜壮阔的人生经历,成为我的“百科全书”,遇到困难时,给我许多智慧和勇气。老师的人生哲学是我的“宝典”。

在陈教授的启发和影响之下,“她找到了新的梦想”,决定攻读教育学博士,献身实践和传播“陈文权法”。(《克服25年慢性忧郁症的喜悦》Global Community 2011.4及《“陈文权效果”改变了我的一生》Global Community 2011.6;《读卖新闻》(2011.12.14)《教育复兴:动力的秘密》)

#### 8) 真诚帮助外国人,和外国人作朋友-Global Community 主编宫崎计实

宫崎计实是日中韩英四语双月刊杂志 Global Community 的主编。40 刚出头,为人谦恭和善。年轻时曾留学英国。他上网看到读者对感动教育的高度评价,便设法接近作者陈文权教授。费时半年,2010 年初终于得到面谈机会。

宫崎一下子变成“陈教授迷”。他主动提出对陈教授和出现陈文权效果的人进行一年连载报道 6 回，其实报道从 2010 年 4 月起已连载 12 回，还在连载中。

宫崎对他见到的所有人真诚而热情地介绍陈文权教授的事迹和其教育方法成就，神采飞扬，口若悬河，滔滔不绝。他与陈教授的谈话中多次提到陈教授的两本著书是他的“圣经”，爱不释手，从中汲取无限智慧和力量。

宫崎多次带包括山元学校董事长在内的领团队走进陈教授的课堂，有时被陈教授邀请对学生即兴讲演。他寄语学生要“真诚帮助外国人，和外国人作朋友”；他本人就是国际友好的一个楷模。

#### 9) 研究所所长变成大学教师—吉田彰显

陈文权认为，人生的理想境界是帮助他人“自我实现”。他多次被各种团体组织邀请举办感动教育讲演会。

日本电信电话公司（NTT）研究所所长吉田彰显先生，1996 年第一次聆听了陈文权的社会人公开讲座，被陈教授无私的奉献精神所打动。随即拜访了陈教授研究室。虽然时周末，他看到学生在研究室忙碌。对他这位不速之客，学生们热情而且耐心细致地介绍各自的研究课题，陈教授更是不顾讲演后的疲倦，与他热心交谈了几个小时。吉田先生连续三年参加了陈文权的社会人公开讲座，1999 年果断辞去干了 24 年的研究所工作，到广岛市立大学执教，摸索高等教育改革之路。（《在游戏中学习》日经商务在线 2008.12.13）

#### 10) 放弃高官厚禄，执教东京工业大学的田边孝二先生

田边孝二先生 1975 年从京都大学毕业后直接进入通商产业省（现在的经济产业省），是典型的职业官僚。新加坡等国的海外工作经历，使他对日本人因循守旧的思考方式感到质疑，并意识到其原因是日本的教育体制。1996 年在 21 世纪日本宏观策略研究委员会的活动中与陈文权教授相识。看到陈教授对这个曾给他多种不公平的待遇的国度，以报恩的心态，为日本大学的教育改革鞠躬尽瘁，田边被陈文权帮助他人“自我实现”的高贵人格所打动，2003 年辞去了经济产业省的职务，到东京工业大学执教，和陈教授一道从事日本教育改革。（《情系“他人实现”》日经商务在线 2009.7.15）

#### 11) 实践“陈文权法”，一举“人气第一”—中国暨南大学的陈海权教授

中国暨南大学的陈海权教授，2004 年春在田边教授主持的 WAA 会上聆听了陈文权的公开讲演，回国之后随即在他的市场学课程中实践“陈文权法”，一举成为该大学最受欢迎的教授。他负责的管理学院市场学习课题组，以“第七批校际教学改革项目 IOC 教学模式在暨南大学实践的绩效分析与探索”（暨教 2005 年 91 号）为课题获得教育科研经费。陈文权突然收到这样内容的感谢信非常的惊讶，但也感到无比的激动。

### 三. 感动教育的传播

#### 1. 在日巡回演讲，为政府献计献策

陈文权应邀在东京代代木大学预备塾发表了讲演（2006.6.28）。包括地方分会场的观众在内，有几千学生和家参加。当天晚上，陈教授收到了数量惊人的来自全国各地学生的手机短信，热泪盈眶。

陈文权还被邀请对企业高管进行“感动教育”的人才教育。比如九州·亚洲经营管理私塾（2008-至今），日本生产性本部主办的“第 48 回东京顶级管理培训”（2009）等。此外，他还出任日本经济产业省产业结构审议会“21 世纪经济产业宏观政策研讨会”唯一的外国人委员，并以“21 世纪的产业，人才，教育”为题，向政府提出建议。

#### 2. 在祖国印尼被誉为“民族英雄”

陈文权从2000年起，在祖国印尼积极开展各种演讲活动。2010年2月18日陈文权应印尼科学技术省的邀请，作了题为“动机的魔力”的基调讲演，印尼科学技术省的机关报进行了头版头条报道。2010年3月21日，陈文权应印尼政府邀请，对全国几百家学校校长教授作了题为“未来教育”的纪念讲演。盛大的纪念演讲被三大媒体以及报纸以“激励式教育”，“从零到英雄”等为题相继报道。其中穆斯林最大报纸《共和报》进行了头版头条报道。他的事迹甚至引发了“陈文权现象”。

### 3. 在泰国和马来西亚的演讲活动

2007年，陈文权应邀到泰国讲演。2010年，应马来西亚政府邀请，与马来西亚前总统穆罕默德·马哈蒂尔同台作了基调讲演。

## 四. “迢迢千里路，拳拳赤子心” - 愿为中国的教育事业尽一份绵薄之力

自2005年，陈文权多次应邀到中国访问并参加学术论文发表及讲演。特别是在厦门大学第一届中日学术交流研讨之学术上的讲演（2008.12）被评为“第一看点”；次日他应邀出席了厦门大学高等教育院的讲演会，与中国著名高等教育的创始人潘懋元教授同台分别作了基调讲演。2009年9月14日在广州华南农业大学百年校庆上作了题为“早稻田大学陈文权教授解读点燃潜力无限的心灵”的学术讲座。会场爆满，破天荒，领导干部全体出席。2009年11月30日在同所大学，作了题为“超越自我，创造奇迹！”的学术讲座。另外，一些新闻媒体也陈文权的事迹和教育法进行了报道。

改革开放以来，中国教育事业取得了令人瞩目的成就。但近年中国高等教育也开始出现似于日本的头痛的社会问题。在社会道德方面也面临一些问题。比如奶粉事件，下水油等问题，令人痛心忧虑。中国政府高度重视全民的品德修养和教育。2011年10月在北京召开了中国共产党第十七届中央委员会第六次全体会议。全会指出把文化建设放在党和国家全局工作重要战略地位，实行“依法治国”和“以德治国”相结合，促进文化事业和文化产业同发展，推动文化建设不断取得新成就。

中国国土广大，人口众多，教育水平地域不平衡。多民族，多元化的教育改革任务迫切而艰巨。作为华人，陈文权衷心期望将“感动教育”传播到中国，把自己的人生经验感悟、人才教育理论，还有感动心灵的方法等与大家共同分享，为中国的教育事业尽一份绵薄之力。

~~~~~

百年校庆学术讲座：早稻田大学陈文权教授解读点燃潜力无限的心灵

分类：[学术新闻](#) 来源：信息学院办公室 编辑：zx1 2009-9-17 16:07:52
<http://xy.scau.edu.cn/INF0/news/details.aspx?id=519>

9月14日下午，题为“如何点燃潜力无限的心灵”学术讲座在图书馆报告厅开讲。主讲人是日本东京早稻田大学教授陈文权博士。讲授期间，全场座无虚席，来自各学院的教工、研究生、本科生聆听了讲座。陈教授首先向大家介绍了他充满挫折与奋斗的人生历程，并从中截取令他感触深刻的教学经验，诠释了他的教学理念：全心全意的真挚态度才能造就人才。陈教授特别提到他在日本桐荫滨大学的教学经历。那时，陈教授初到日本任教，不仅没有受到学生的爱戴、老师的认可，还由于是外国人的原因而遭到嘲讽和排挤。但是，陈教授坚持“奇迹可以发生”以及“自己可以创造奇迹”，全心全意地做好自己的教学工作，用心教导那些处于萎靡状态的大学生们，不仅改变了大批游手好闲的社会边缘人，他也在那些学生的帮助下取得了多项研究成果。对此，陈教授向听众强调：“用心可以改变人！”“教学，要用心去教，教到他们的心理面”，“授人以鱼，不如授人以渔”。

另外，陈教授还指出，现在的大学生在进入大学校园后，由于太过自由，变得懒散而乖张。一方面，作为教师，应该严格要求学生，并用心去点燃他们的激情，挖掘出学生们的无限潜力；另一方面，作为学生，要积极上进，磨练成一个有魅力的人。在这里，陈教授例举了渡会君从一名逃课、挂科、自闭，甚至计划自杀的男生发展成为日本知名作曲家的传奇经历，

得出结论：每个人都有无限潜力，并且把无限潜力挖掘出来的教育方法也存在。



陈文权教授精彩
演讲

与听众交流互动



最后，陈教授对现场同学的提问作了详细解答。他诙谐幽默、声情并茂的演讲方式赢得了在场师生的好评，现场不时有掌声响起。学术讲座由信息学院、软件学院牵头举办。院长杨波教授主持了讲座。

（文/曾波涛 潘奕呈 图/黄碧云）

相关链接：

陈文权博士出生于印尼东爪哇省泗水市，祖籍福建省。他先后在日本取得了4个博士学位：
1985.3.26 在东京工业大学取得工学博士学位（电子电脑学）学位记号 5986
1987.9.30 在东北大学取得医学博士学位（癌症诊断学）学位记号 1901
2001.3.20 在东京理科大学取得药学博士学位（Smart Medicine, NatoTech）学位记号 172
2003.6.24 在早稻田大学教育研究院取得教育博士学位（高等教育学）学位记号 3606

陈博士是日本政府21世纪的国家宏观经济计划的参与者之一。他曾于美日的不同大学及学院中担任各种教职，相继为：日本东京工业大学研究员、东北大学医学部研究员、美国 Drexel 大学医学工程系准教授、美国 Thomas Jefferson 大学医学部准教授，特别是在日本桐荫横浜大学，相继担任过制御 System 工程系教授和工学研究院博士生导师指导教授，人类科学工学研究中心副主任和大学评议员，首创了日本的医用工程系并任其主任教授，还创立了尖端医用工学研究中心，并任其研究所负责人及副所长，另外还担任过横浜综合医院评议员等职。

陈博士还担任过美国 Caltec 大学、加州大学、Duke 大学、UNC 大学、Alabama 大学、Florida 大学、Nevada 大学、America Christian 大学、东京工业大学、日本东北大学、上海同济大学、印度尼西亚大学、印尼总统大学、早稻田大学、Venice 国际大学（意大利）等访问客座教授及研究员。

陈博士现任早稻田大学教授（国际教养学术院）。曾任早稻田大学国家部副部长，美国北加州大学教授，EQ Institute 感性教育心理研究所所长，临床教育科学研究所所长等职。

自 1979 年开始研究和著述，至今出版十多本书，发表学术杂志论文及国际演讲论文共九百余篇。在欧、美、日申请的专利及发明共三十余件。他亦是电子情报工程、医学工程、药学工程、临床教育心理学，人材教育、高等教育学等方面的国际知名学者，听过他的讲演的学者有数万人，遍布欧，美，亚三洲（即美国、日本、中国、法国、英国、丹麦、澳大利亚、台湾、香港、新加坡、印度尼西亚等国）。自 1984 年以来他曾先后从美国保健局（NIH），日本政府等机构获得总额两千三百万美元的研究经费。

陈博士是美国物理（声学）学院院士，美国超声波医学院院士，日本超声波医学院院士，美国电气电子情报工程学院高级会员，日本音响学会，日本教育工学学会等学会会员。他先后被推荐入世界名人录、科学及工学名人录、医学及保健名人录、金融及工商业等名人录。

科学研究领域：医学电子，医学工学，超音波医学，医学画像学，医学造影剂，DDS 药学，创药工程，电子工学，声学工学，计测工学，微小气泡音响学，界面科学，教育工学，感性工学，临床教育心理学，潜在能力开发，孔子教育学，人材教育学，高等教育学等。

~~~~~

2011 年 04 月 04 日 来源：科技日报 作者：陈超

<http://www.stdaily.com>

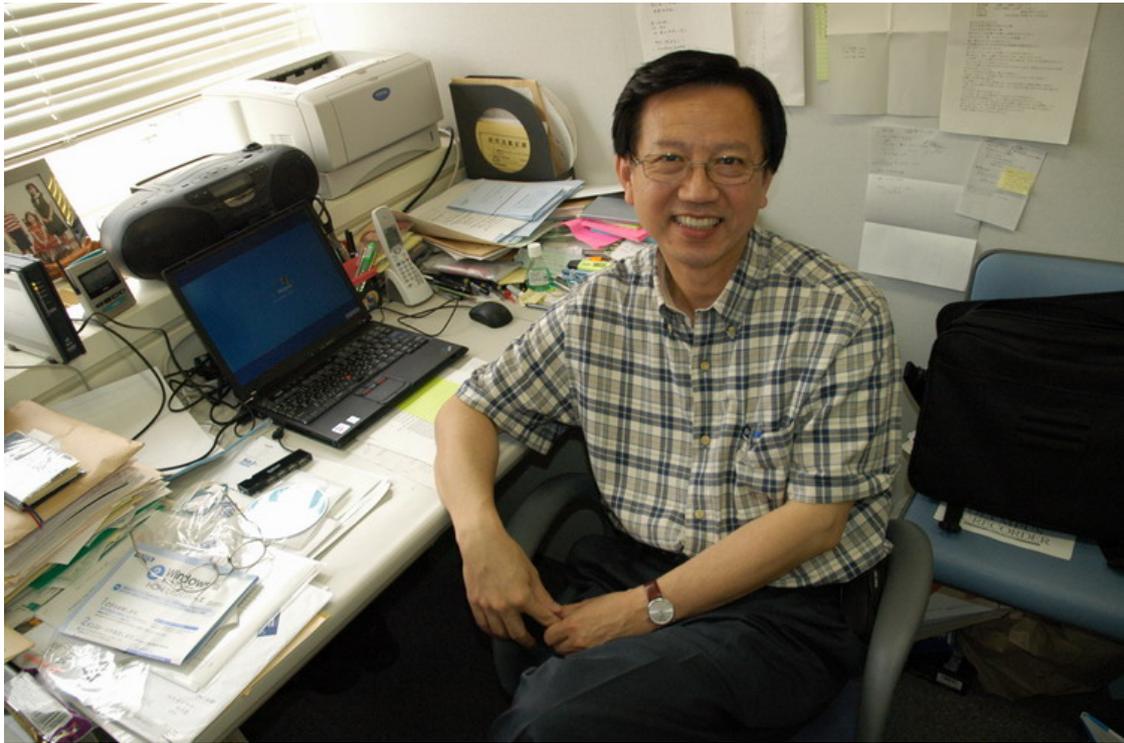
[http://www.stdaily.com/kjrb/content/2011-04/04/content\\_291500.htm](http://www.stdaily.com/kjrb/content/2011-04/04/content_291500.htm)

陈文权，1951 年出生于印度尼西亚，12 岁上小学，高中中断。1974 年赴日，25 岁考入东京农工大学，先后取得工程学、医学、药学和教育学博士学位。现任早稻田大学教授。印尼华人陈文权出生时，印尼严重排华，华人教育也受到了严重限制，直到 12 岁才上小学。又因为发生排华事件，陈文权不得不中断了高中的课程。1974 年，印尼排华再次升级，几千家华人商店被烧光，陈文权家的商店也未能幸免。凭着对生命的渴望和对学习的向往，陈文权逃出印尼来到日本。经过两年的日语学习，1976 年，25 岁的陈文权终于考上东京农工大学，实现了在印尼不可能实现的上大学梦想。

早年父母双亡的陈文权，在哥哥的资助下开始了大学学习生活，也开始了不平凡的奋斗历程。

考上东京农工大学不久，陈文权由于学习勤奋，得到了日本国费奖学金，从自费留生成为了国费留学生，可以不用回到印尼，得以继续学业。之后的 30 年里，他在难以想象的环境中取得了东京工业大学工学博士、东北大学医学博士、东京理科大学药学博士和早稻田大学教育学博士学位。

陈文权在办公室。本报记者 陈超摄



### 刻苦学习取得四个博士学位

陈文权只身前往日本求学时，日本的外国留学生非常少，陈文权为进入大学四处碰壁。在日语学校学习了两年之后，1976年，他以优异成绩考入东京农工大学电子工学部。刚入学时，他听不懂日语授课，但他把听不懂的痛苦当作自己的一种锻炼。靠着刻苦的学习和常人难以承受的忍耐，在大学的4年时间里，别的学生最多拿到132个学分，而陈文权竟拿到了220个学分。

大学毕业后的陈文权首先面临的是回到印尼还是留在日本的难题。如果回到印尼，排华风气正盛，在大学3年级时，他家里的商店遭到了暴徒放火，大火燃烧了三天三夜。印尼是回不去了，但留在日本又何尝容易。为了学习，也为了摆脱回到印尼的危险，只有留在日本。而留在日本，只有继续进入大学读学位才有可能得到签证。为了学习电子工程学，1982年陈文权考入东京工业大学大学院攻读博士，跟随时任日本超声波医学会会长的导师，开始了全新的研究领域。1985年陈文权凭借“超声波定量诊断法”的研究成果取得了第一个博士学位。虽然学业有成，但当时日本排外，特别是排斥亚洲人的风气并没有改变，想要在日本就职难上加难。他投出的50多封求职信如同石沉大海，没有一点回音。出于同样的原因，为了得到日本的签证，他再次进入大学读学位。

1985年，陈文权又考入日本东北大学医学部博士课程。在东北大学的3年期间，陈文权发表了56篇论文，取得十几个发明专利。1988年，陈文权顺利地取得了第二个博士学位——医学博士学位。然而，虽然成为了双料博士，但在当时的日本，就业仍然十分渺茫，没有一个日本公司或大学向他伸出手来。

此时，有两个机会开始向陈文权招手。在陈文权发出大量求职信之后，虽然日本公司渺无音信，但美国GE（通用电气）公司慧眼识人才，以500万日元的高薪和提供三室一厅的住房邀请他担任GE公司日本分公司课长职务。而同时，世界超声波界最权威的超声波研究专家约翰·雷德教授在看到陈文权发表的系列论文之后，极力邀请他去美国德雷塞尔大学继续超声波的研究。出于对科学研究的执著，陈文权放弃了GE公司的高薪职务，1988年，在获得第二个博士之后赴美跟随约翰·雷德教授从事超声波研究。在美国研究期间，陈文权先后任

职德雷塞尔大学医学工程系副教授和美国托马斯·杰斐逊大学医学部副教授。由于研究成果丰硕，获得美国卫生部（HIN）150 万美元的研究经费，赴美两年之后就被聘为准教授。

陈文权在美国的出色研究成果，早已被他的日本导师看在眼里记在心上。他的导师已经转到桐蔭横滨大学做董事长，经日本导师反反复复的劝诱，并得到他回到日本后担任教授的保证后，1993 年陈文权回到了日本桐蔭横滨大学担任教授。桐蔭横滨大学是日本排名最后的一个大学，经营也完全陷入了严重危机。要想起死回生，只能依靠申请国家科研项目的拨款。陈文权在学校成立了新的医学工程部，利用自己的研究成果向政府申请 20 亿日元经费，建立了研究中心，拯救了大学破产的命运。虽然做出了拯救大学的壮举，但却仅仅因为是印尼人，他的名字不但没能出现在项目申请人的名单中，就连参加大学教授会议这一理所当然的事情都被排斥在外，不得出席。

受到这一打击的陈文权终于倒了下来。经过半年多的休息之后，不甘沉沦的陈文权于 2001 年 3 月以第一名的成绩通过了东京理科大学药理学论文博士学位答辩，得到了人生的第三个博士学位。2003 年 6 月，陈文权又在早稻田大学取得了人生的第四个博士学位——教育心理学博士学位。当年 9 月，陈文权被早稻田大学聘任为教授。

### 致力于落后学生的教育

现为早稻田大学教育学教授的陈文权提出并实现了一种全新的教育学理论“陈文权法”，即通过教育改变人们对待“问题儿童”和“后进生”的心理和态度，唤醒这些学生的潜能和积极性。

在告别美国的研究生活后，他首先任职的大学是一所私立学校。在大学这样一种学习科研的地方，随处可见的却是“无感动”和“无朝气”的学生。教师们也只把眼光放在 20% 的好学生身上，对其余的落后学生不管不问，任其自暴自弃。其他大学大都存在同样情况。陈文权开始了对完全没有学习兴趣或深信自己完全无能的学生实施心灵教育和感动教育的课题研究。越是难题就越要挑战，陈文权想打破这种现状，挽救 80% 的落后学生。

陈文权发现，在互联网时代，仍然沿用 10 年前甚至 20 年前的教育方式是行不通的。学生如何改变取决于大人，所以首先教师需要改变。教师每天充实自己，会给学生留下深刻印象，让学生觉得自己也要向老师一样得到充实感，激起他们的热情。要向世人传达什么，光用华丽的词藻不起作用，需要把自己的真实传达给对方。

他给学生规定，在他上课时，迟到 10 分钟以上者不得进入课堂，严禁在课堂上说闲话，出席率必须达到 70% 以上。无论考试成绩再好，如不遵守以上规定仍为不及格。这样的规定不可能没有反抗的学生，陈文权认为，做这样的规定，是希望多挽救一些学生，作为补偿，他向学生保证把他们已经遗忘的潜在能力开发出来。在他的课堂上，听他讲义之前和之后的学生变得判若两人，学生们也学会整洁了，变得彬彬有礼了。陈文权说，这是因为有了自信，心里有了理解他人的余地，从而学会感恩了。

如何度过大学生生活呢？交纳了高额学费后，再逃课打工吗？日本现在只要上课就能轻而易举取得学分毕业的教育制度是出现这种现象的原因之一。陈文权认为，把获得知识和思考能力最好的 4 年浪费掉实在是太可惜了。因此他主张，教师必须成为学生的典范，学生也要寻找能成为自己典范的教师。大学是一座宝山，可是大部分学生并没有发现这点。如果学生发现了大学是座宝山，上课就会觉得更有趣，也更有意义。

现在日本社会处于物质泛滥、缺乏激情的状态。要让在这样环境里长大的年轻人获得激情，是一个新的课题。教育对象每天都在变化，今天的想法是这样，也许到了明天就又改变了。教育人实非易事。现在，他希望“陈文权法”教育理论能够发掘人的潜力，为人类做更大的贡献。

陈文权现在在大学任教之余，还立志于中国的教育事业，奔走于中国的各大学之间进行演讲活动，为发掘学生的潜力，解决中国啃老族这一社会现象做着不懈的努力。(科技日报)

=====

2012“海外华侨华人高层次人才江苏行”活动  
诚邀报名

事務局

为贯彻落实《海外人才为国服务计划》，积极为海外华侨华人高层次人才回国创新创业搭建交流合作平台，江苏省人民政府侨务办公室将于2012年7月4至9日举办“海外华侨华人高层次人才江苏行”活动。

热忱欢迎博士毕业在海外工作三年或硕士毕业在海外工作五年以上、拥有自主知识产权项目或专利技术且有意到江苏创业发展的海外华侨华人高层次人才报名(视技术或项目情况，报名条件可适当放宽)。我们将根据报名人员的技术(项目)和考察线路地点，与有关市对接，经遴选后确定是否参会，并发出邀请函。参会代表在苏考察期间的食宿行费用由我方承担。

为鼓励更多的海外高层次人才来江苏创新创业，凡参加2012海外华侨华人高层次人才江苏行活动，并在活动结束前与合作单位签约的海外高层次人才给予国际旅费补助，补助标准为：来自欧美地区的6000元人民币，欧美以外地区的3000元人民币。

报名时间：即日起至2012年3月31日止。

报名方式：请用中文填写好报名表，邮件发送至博士协会事務局。

邮 箱：[office@casej.jp](mailto:office@casej.jp)

=====

■ 情報園地

2012年情報科学技術フォーラム

李 磊

FIT2012 @法政大学小金井キャンパス開催案内

三浦 孝夫

法政大学 理工学部創生科学科

情報科学技術フォーラム(Forum on InformationTechnology; FIT)は、情報処理学会と電子情報通信学会「情報・システムソサイエティ&ヒューマンコミュニケーショングループ」とが2002年より合同で毎年開催している全国大会で、情報・システム関係としては日本最大規模のものです。第11回目の今回は、首都圏中央線沿線に位置する法政大学小金井キャンパスでの開催となりました。

第11回情報科学技術フォーラム(FIT2012)

会期：2012年9月4日(火)～6日(木)

会場：法政大学小金井キャンパス

(東京都小金井市梶野町)

法政大学理工系学部は、1944年に創立された航空工業専門学校を前身とし、1950年に学制改革により工学部となり、さらに2008年4月より工学部が改組されて理工学部、生命科学部が発足し、情報科学部を含めて3学部2大学院研究科9学科からなり、現在約4500名の学生がここで学んでいます。近年の成熟した社会では、「豊かな生活の追求」という価値観から、多岐にわたる領域に横断的に存在する「さまざまな共生」に価値を移そうとしています。もはや単機能的な「技術」の追求だけでは達成できず、「自然と社会の協調」をどのように進めてゆくか、また、「人間の知恵と心の豊かさ」をどのように創造する

のかなど、科学的かつ総合的なアプローチが必要となっています。

<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/campus/koganei/index.html>

法政大学の理念である「自由と進歩」を基調とする思想と伝統に従った研究方針と教育環境を通して、小金井キャンパスでの教育は将来への理想と目標をめざすものになっています。この大きな理念に沿ってキャンパス整備も進み 2008 年度には東館が竣工しており、さらに 2010 年 12 月には北館が竣工し快適な教育・研究環境が整備されました。一新された建物により快適な教育・研究環境の下で優れた発展を遂げようとしています。2011 年度からは理工学部新たに創生科学科も設置され、新たなキャンパスにふさわしい展開が始まっています。

今回、FIT2012 は小金井市で開催されます。小金井市は、東京都のほぼ中央、武蔵野台地の南西部にあり、首都の利便性を有しながら、豊かな自然が残された静謐な環境にあります。小金井の地名は、「黄金に値する豊富な水が出る」ことから、黄金井（こがねい）が小金井になったと言われていました。法政大学小金井キャンパスは、中央線東小金井(新宿から中央線快速で 20 分程度)から徒歩 10 分、小金井桜で有名な小金井公園は、徒歩 5 分程度の北に位置します。FIT2012 が開催されるこの機会に、多くの皆様に法政大学小金井キャンパスへおいでいただきますよう、心よりお待ち申し上げます。

~~~~~

2012 年中国経済の展望

ポール・クルーグマン

2012 年 1 月 2 日、ノーベル経済学賞受賞者のポール・クルーグマン博士は米紙ニューヨーク・タイムズを通じて、2012 年中国経済の展望を分析した。香港紙・文匯報（電子版）が伝えた。

中国の現状を想像してみてください。近年、中国の経済成長は巨大な規模の建設業の繁栄によって推進され、その原動力は不動産価格の高騰であることと我々はその経済成長はバブルの典型的な特徴を示されていることを認識している。融資は急速に伸びていることにその大部分は伝統的な銀行融資ではなく、政府の規制を受けない「影の銀行システム」によるものであるためそのバブル経済は今では弾けかかっている。中国の現状は 80 年代末（バブル）の日本のことと、2007 年（リーマン・ショック）の米国のことと同様ではないかと思う。もはやこれ以上の激震に耐えられそうもない世界経済に中国は次の震源地になるような気配を見せられている。

過去 10 年、中国経済で最も目を引いたのは家庭の消費は伸び続けているものの、経済全体の成長ペースに遅れとなっていることだ。消費が GDP 全体に占める割合はわずか 35% で米国の約半分にすぎない。では、誰が中国で生産された商品やサービスを買われるのか？ 答えは一部は当然我々米国人だよ。しかし、さらに大きい部分を占めているのは投資性の支出で GDP の半分に迫る勢い、こうした投資を後押ししているものが、膨れ上がるのは不動産のバブルである。2000 年以降、不動産投資が GDP に占める割合は倍増を続けているが、その増えた部分の大部分が建設関連企業であることは間違いないことだ。今もバブルは弾けかかっていることに中国経済、そして世界経済にどれほどの損害を与えるのか？ 中国は取るべき措置を取られているから心配がないとの見方もあるが、こうした言い方は 80 年代に日本のバブルが弾ける前にも聞いたことがある。その後も米国は「日本のようなミスは絶対に繰り返さない」と言いながら、結局、さらに悲しい事態に陥っていた。筆者の心配が単なる杞憂に終われば良いのだが、心配しないわけにもいかない。

今の中国は我々が今まで目にした他の国・地域の経済が衰退していく状況と良く似ている。世界経済は欧州危機の影響でかなりの痛手を負ったが、これ以上の危機が加わらないことを願っている。（翻訳・編集/NN）（康 喜軍編集修正）

=====
■その他

会員状況

事務局

今日現在までに、475名が入会しています。先月より + 1名です。

~~~~~

**投稿募集**

協会のメルマガが2012年から隔月1期を発行しています。会員には、ご自分の研究紹介、感想、雑談、思い出、提案などがあれば、どんなささやかなことでも構いませんので、皆さんからのご投稿をお待ちしております。

連絡先：メルマガ編集委員会 [mailmag@casej.jp](mailto:mailmag@casej.jp)

~~~~~

メルマガ編集委員の募集

メルマガは我が協会内の情報誌で、全ての会員のご参与を期待しております。メルマガは2012年から隔月一回発行し、今のところは5人の編集者が分担して編集・校正を行い、作業自体はそれほど複雑ではないです。我が協会を活性化させるため、有志の方にはぜひご応募頂ければ、と思います。一緒に博士協会を盛り上げましょう！ご応募をお待ちしております。

応募先：メルマガ編集委員会 mailmag@casej.jp

~~~~~

**事務局からのお願い**

転職や就職などでメールアドレスの変更が発生した場合には、ぜひ事務局あて ([office@casej.jp](mailto:office@casej.jp)) にご一報ください。

=====

本期編集担当：康 喜軍

校正：事務局

配 信 元：全日本中国人博士協会事務局 [office@casej.jp](mailto:office@casej.jp)

<http://www.casej.jp>

Copyright (c) 2012 ー全日本中国人博士協会ー All rights reserved.

=====

メルマガ編集委員会

委員長

李 卿 (編集担当)

副委員長

康喜軍 (編集担当)

委員

金 俊 (編集担当)

郭 陽 (編集担当)

事務局 (校正・発行担当)

=====